

カント「永遠平和のために」精読 —21世紀の政治学原論—

クラス
コード 64A06

曜日時間 土曜 15:30~17:00

受講料 22,000円

定員 30名

単位 2単位

概要 本講義では、カントの「永遠平和のために」（1795年）を読みます。200年前に現れたこの本は、現実的な政治の世界では哲学的理想論と言われながらも、世界史の大事件に二度もかかわります。一つは1920年の国際連盟の結成であり、もう一つはベルリンの壁の崩壊（1989年）と冷戦終結そしてEUの成立（1992年）です。この一連の出来事は、従来の政治の世界の常識を覆すものであり、本書のアクチュアリティを一挙に高めました。本講義では、カントの他のテキストとの関連性に留意しながら、本書の文脈を理解し、本書における「理論と実践」の意味を考えます。

講師 杉田 孝夫

獨協大学講師 専門／政治学・政治思想史
獨協大学地域総合研究所客員研究員
お茶の水女子大学名誉教授
著書:『市民社会論』（共編著、おうふう）、『岩波講座政治哲学3近代の変容』（共著、岩波書店）ほか
訳書にバイザー著『啓蒙・革命・ロマン主義』（法政大学出版局）がある

テキスト 永遠平和のために：啓蒙とは何か 他3編（カント著、中村元訳／光文社古典新訳文庫）700円＋税

内容 5月18日～12月7日（全10回）

- ① 5月18日 はじめに：カント以前の平和論（サン・ピエールとルソー）とカント以後の理想主義（ウェーバーとヤスパースとヴァイツゼッカー）の系譜
- ② 5月25日 永遠平和をもたらすための予備的考察：冒頭の留保条項と6項目の予備条項を検討する
- ③ 6月8日 永遠平和のための国内条件の考察：「共和制」か「専制」か（第1章）
- ④ 6月22日 永遠平和のための国際関係の考察：「自由な諸国家連合」か「世界国家」か（第2章）
- ⑤ 7月6日 「訪問の権利」と「友好の権利」としての世界市民法：だれもが本来は地球市民（第3章）
- ⑥ 9月28日 永遠平和は「自然の意図」あるいは「摂理」によって保証されている（第1追加条項）
- ⑦ 10月12日 永遠平和のための秘密条項：「哲学者に耳を傾けよ」の意味（第2追加条項）
- ⑧ 10月26日 政治とは何か（1）：永遠平和の観点からみた道徳と政治の不一致（付録1）
- ⑨ 11月9日 政治とは何か（2）：公法を成立させる条件という概念に基づいた道徳と政治の一致（付録2）
- ⑩ 12月7日 むすび：日本国憲法における「永遠平和のために」——カントと南原繁と日本国憲法